

科目	福祉人間工学	単位数	2
担当教員	木村 貴彦		
履修対象	健康科学科1年秋学期		
目的	健康で安全に暮らしていくために、人間と機器の相互作用に関する分野である人間工学的見地からの知識を獲得します。現代社会は高度に機械化されており、利便性や効率性が求められています。ところが、その一方で、操作方法が複雑であったり高齢者や障害者に対する配慮が欠けていたりすることで様々な問題がみられます。本講義では、環境・組織・人の各要因とそれらの相互作用から人間工学的見地に基づいた知識を身につけることによって、人間を中心とした安全で健康的な労働環境と日常生活について考えていきます。		
達成目標	「知識・技能」 (1)人間工学がどのような研究分野であり、何を目指しているか説明できる。 (2)人間中心のモノとの関わりを説明できる。  「思考力・判断力・表現力」 (1)日常生活での利便性に関心に向け問題を抽出できる。 (2)人間特性と機械の相互作用が判断できる。		
授業計画			
1	授業の進め方について		
2	日常生活と人間工学の背景		
3	人間工学の考え方とアプローチ		
4	健康・福祉と人間工学のつながり		
5	人間の動作と感覚・知覚特性について		
6	視野計測から人間特性を考える		
7	環境設計のための人間工学的知見について		
8	様々な作業の遂行の実現に関わる問題		
9	人間の注意とヒューマンエラー		
10	ヒューマンインタフェース		
11	情報福祉と人間工学		
12	加齢・障害と人間工学		
13	暮らしの中の人間工学		
14	人を助けるための様々な技術について		
15	まとめ		
授業形態	基本的に講義形式で行いますが、必要に応じてディスカッションやデモなどを取り入れます。作業を通じて理解を促進して下さい。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
特に指定しません。参考図書は適宜指示します。			
参考書	篠原一光・中村隆宏(編)心理学から考えるヒューマンファクターズ ―安全で快適な新時代へ 有斐閣 小川鑛一 イラストで学ぶ看護人間工学 東京電機大学出版会 情報福祉の基礎研究会 情報福祉の基礎知識 -障害者・高齢者が使いやすいインタフェース- ジアース教育新社 D.A.Norman 誰のためのデザイン? 新曜社		
成績評価の基準・方法	毎授業の課題、授業後の復習課題の取り組み(20%)、小テストと試験(70%)、講義への貢献度(10%)		
留意点	人間工学は私たちの日常の生活と密接な関わりを持っています。工学という名称にとらわれず、積極的な受講態度を期待します。		
準備学習	授業で扱われた内容について、文献をあたって日常生活との関わりを振り返ってみて下さい。(1時間程度) 毎授業後にマナバで復習課題を出します。資料を参照して復習して下さい。(30分程度)		
備考	フィードバックを行う際にはマナバ、課題の返却によるものとする。	No.	HS821002